

8月特別企画 ご坊さまの鐘を鳴らそう！

別院の大鐘を
みんなでついでみよう！

8月1日（金）～31日（日）

高山別院の夕鐘が復活！

高山別院の大梵鐘は

「明け六つの鐘がご坊ゆゑわが町の家々に鳴るわが家にも鳴る」と法学者・牧野栄一博士が歌ったように、その響きは高山の町の風物詩でした。現在、毎朝6時と法要日の正午に鳴らされていますが、むかしは夕方にも鳴らされていたといわれています。

その夕鐘の響きを夏季限定でよみがえらせるべく、鐘つき体験「ご坊さまの鐘を鳴らそう」を行います。ぜひこの機会に、飛騨随一の巨鐘を自分の手で鳴らしてみませんか？

対象

参加自由、どなたさまもご参加いただけます

期間

8月1日（金）～31日（日）の期間毎日実施

申込

申し込み不要、夕方4時50分に別院鐘楼前へ集合
参加された方には参加スタンプを押します
スタンプがたまるとプレゼントがあるかも？

主催：飛騨御坊真宗教化センター青少幼年部会／高山別院



高山別院照蓮寺の鐘



今の鐘は三代目にあたる
大き さ：直径4尺3寸（1m30cm）
重　　さ：約800貫（3,000kg）
完　　成：昭和49（1974）年7月28日

初代

天明6（1768）年1月3日	初代の鐘が完成。飛騨最大の巨鐘だった。 高さ2m30cm、直径1m30cm、重量2,600 k g。
天保13（1842）年11月7日	大太鼓に代わって鐘が朝夕の時報に使われるようになる。
明治2（1869）年2月29日	梅村騒動に際し一揆開始の合図として乱打される。
明治8（1875）年4月24日	高山大火により別院全焼。 門徒たちは猛火をかいくぐり鐘の下に畳を積み上げ鐘が焼けるのを防いだ。 落下した鐘は畳を焼きながら中にもぐりこみ、焼失を免れた。
大正時代	大谷婦人法話会高山支部の女性が朝夕の鐘をつくようになる。
昭和17（1942）年1月20日	第二次世界大戦に伴う金属回収令により、飛騨全寺院の梵鐘や仏具とともに供出。 銃砲弾や兵器の材料として鋳つぶされた。

二代目

昭和21（1946）年	応召した初代の代わりに二代目の鐘が新造される。大きさなど初代と同じ。
昭和22（1947）年4月21日	火災により別院全焼。鐘楼も焼け落ち鐘が焼ける。
昭和25（1950）年頃	火災で焼けたためか鐘の音色が全く響かなくなる。

三代目（今の鐘）

昭和49（1974）年7月28日	鐘楼再建に合わせて三代目が新造される。
------------------	---------------------